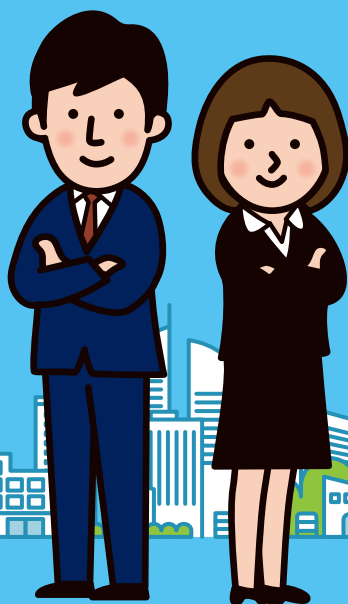


連載エッセイ
essay

第10回

1年目の勤務を 終えて



いしまる ももこ
石丸 桃子

(一財)
砂防・地すべり技術センター
斜面保全部 技師

私が砂防・地すべり技術センターに勤務して2年目を迎えました。この執筆を機に、昨年1年間の振り返ってみました。拙い文章ではありますが、1年間の感想と心境の変化、今後の展望を記したいと思います。

入社してからの1年は、過ぎてみるととても早かったように思います。私は地方で大学生生活を過ごし、昨年の4月から東京へ来ました。学生の頃に6年間住んだ家には荷物が増え、思い出もたくさんありました。学生生活を送る中で、成人を迎えたり、楽しいことや大変なことを経験したりしたことで、少しは大人になれたと思っていました。しかし、入社すると、関わる方々の年齢や立場などが学生の頃より多様になりました。また、技術的なこと、社会人としてのマナー、コミュニケーションなど、分からないことばかりです。本当に、周りの方々のおかげで1年間勤務することができたと思います。ありがとうございます。年齢を考えると、立派な大人として振る舞うことができなければいけません。新人だからと、甘えてしまっている部分があると思います。成長することを止めずに頑張っていきたいと思っています。

社会人となってから、周囲の上司や先輩方はもちろん、私生活を過ごす中で関わる「働く人」の仕事に対する姿勢に興味を持ち、尊敬することが多々ありました。何人かの方がおっしゃっていた、印象に残っていることは、「仕事は大変だけど、その中に楽しみを見つけてやろう」ということです。学生の頃、仕事をする上で、やりがいや楽しみを持つことは、それほど重要ではないのではないかと感じていたこともありましたが、今では全



能登半島の調査の様子。この原稿を執筆している現在、能登半島地震の発生から3か月が経ちました。この度、被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧をお祈り申し上げます。(石川県珠洲市仁江町にて)

く違うように感じます。私生活で関わったやりがいや楽しみをもって働く人を例に挙げると、通っている美容室の美容師さんと、友人がいます。その美容師さんは、「新しいカットを勉強してきたので、今回もきれいにします!」とってくれたり、「ボーナスで買いたいものは新しいハサミです。」とあっていたり、本当に仕事が好きなのだな、この人に切ってもらいたいな、と思わせてくれます。友人は、初めての仕事でうまくいかず、泣いてしまったと言っていましたが、幼い頃からの夢へ前向きに頑張りを続けています。仕事に対するやりがいや楽しみは、自身を成長させると同時に、周りへの影響を与えるもので、仕事に価値を生むために重要な1つでもあるのではないかと思います。

1年間過ごしてみて、これからの課題が3つあります。自信がないこと、わかりやすく説明すること、自分で考えてみることで、です。はじめに、当たり前ですが、謙虚であることと自信がないこ

とは違います。自分に自信が持てないせいで、できなかったことがあると思います。目の前のことに真摯に取り組むこと、とにかくまずはやってみるという気持ちで、少しずつ自信をつけていけたらと思います。2つ目に、わかりやすく説明することですが、この1年で多々難しさを感じました。友人に相談したところ、説明がわかりにくい時があると言われ、落ち込んでしまいました。しかし、素直に受け止め、普段から説明が冗長にならず、必要な情報の入っているものになるよう、心がけるようになりました。3つ目の自分で考えて

みることですが、周りの方々に頼る中でも、言われたことを淡々とやるだけでなく、なぜこうなのか、次はこうしたら良いのではないかとというようにしていけたらと考えています。

最後になりますが、1年間お世話になった皆様、本当にありがとうございました。これからも引き続き、皆様のお力をお借りしながら、成長していけるよう、努めてまいります。



地すべり地内の排水状況を確認している様子。現地調査では、事前の準備をした上で、周りの方に質問しながら、自分の目で現場を見る力を養っていけたらと思います。(群馬県藤岡市譲原にて)